



# 成績・卒業要件



## 成績はどのように決まるの？

### 1 成績評価と単位

#### ❖ 成績評価のしくみと意味

「成績評価」は、履修した科目の学修成果で教員が判断（評価）します。その学修成果については、できるだけ公平かつ客観的に評価するため、正答式やルーブリック評価（P.61 参照）など、適切な評価方法を用い、あらかじめ評価の基準や評価の対象（レポート、定期試験、授業参画度など）をシラバスで明記し、学生にも事前に理解できるようにしています。成績評価は、これまでの取組を振り返り、卒業までの履修計画を立てる上でも参考になることでしょう。

また教える側の教員も、成績を通じて明らかになる授業に対する学生の理解度を資料とし、授業をより効果的に展開できるよう、授業改善に努力しています。

#### ❖ 成績と「単位」の関連

履修した科目で規定の成績評価を得ると、「単位」を修得できます。1科目は通常15週にわたり、体系的に設計されているため、日ごろからの授業への取組が重要。大学の教育課程では、個々の授業科目ごとに設定された単位を積み重ねていきます。

修得した単位が卒業要件を満たすことによって修了となり、学位\*が授与されます。



#### 学位

大学・短期大学を卒業した人や大学院の課程を修了した人に対して授与される称号。

## 2 授業や課題ごとに達成度を測る，ルーブリック評価

### ❖ ルーブリックとは？

正解・不正解では測れないレポートやプレゼンテーションなどを評価するツールとして、日本大学では一部の科目でルーブリック評価を導入しています。あらかじめ設定された授業や課題での到達目標\*に対して、皆さんが「どの程度」達成できたのかを段階別の評価基準で測るので、目に見えにくい「成果」や「努力」を可視化することができます。

### ❖ ルーブリックのしくみと使い方

ルーブリックは、段階別に達成度の状態を文章化\*しているため、皆さんは評価されるポイントがはっきりわかります。また反対にその状態を目標にして、授業や課題に取り組むことができるので、学びや成長の指標として、皆さん自身が活用できるようになっています。

#### 到達目標

科目（授業）で育成する能力や能力レベルの達成目標のこと。学生はそれを目標に、授業を受け学ぶ必要がある。到達目標は、教員が設定し、シラバスで提示される。また、テスト、レポート、課題に適用するルーブリックも記されている。

#### 段階別に達成度の状態を文章化

評価ポイントが明快になるという、学生側のメリットがある。他方、教員の主観が影響する恐れが少なく（透明性）、複数の教員が評価しても同じ結果が得られる（公平性）という、評価者の教員にとってのメリットもある。

### ■ ルーブリックを使った評価表の例

（レポート採点用のルーブリック）

#### 評価の基準

		評価の基準		
領域	観点	A	B	C
評価の観点	構成	全体的に非常にわかりやすいように配慮されている。	配慮はなされているが、わかりにくい部分が一部ある。	配慮はなされておらず、全体的に非常にわかりにくい。
	記述内容の正確さ	綴りのミスや誤字、脱字がない。	綴りのミスまたは誤字、脱字は、全部で3箇所以内である。	綴りのミスまたは誤字、脱字が、全部で4箇所以上ある。
	振り返り	自己の受け止め方がどう変わったか、今までの思い込みが変わったかなどの振り返りに関する記述がある。	振り返りについての記述が十分になされている。	振り返りらしき記述はあるが、十分とはいえない。

### 3 予習・復習も単位のうち!? 単位修得に必要な学修時間

授業科目の単位に必要な学修時間は、大学設置基準\*で、「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし」と規定されています。日本大学は、大学設置基準に基づいて定めた「日本大学学則」により、次のとおり授業科目の単位計算をしています。

種別	1単位に要する授業時間
講義、演習科目	15時間から30時間までの範囲で学部等が定める時間の授業をもって1単位
実験・実習・実技科目	30時間から45時間までの範囲で学部等が定める時間 <sup>(注1)</sup> の授業をもって1単位

(注1) 芸術学部における個人指導による実技の授業については、15時間の授業をもって1単位とする。

\* 講義、演習、実験、実習または実技のうち2つ以上の方法により授業を行う場合については、その組み合わせに応じ、上表に規定する基準を考慮して学部等が定める時間の授業をもって1単位とする。

\* 教育上必要と認められる場合には、修得すべき単位の一部について、時間制をとっている。

毎週1時間\*の授業を15週行って1単位としているため、大学設置基準で規定されている「45時間の学修を必要とする内容」を満たすには、1時間の授業に対して2時間の授業時間外の学修が求められます。つまり、授業時間に加え、予習・復習の時間も単位に含まれると考えられています。

授業の理解を助けるために、レポートや課題などが課されることがありますが、この単位の持つ意味(単位の実質化)をよく理解し、真剣に学修に取り組んでください。課題が特に与えられなくても、予習・復習を習慣付けることが必要です。

#### 大学設置基準

大学を設置し運営していくにあたり必要な最低の基準を定めた文部科学省令。

#### 講義の場合

<b>授業時間 2 時間</b> + <b>授業時間外の学修 (予習・復習など) 4 時間</b>	<b>× 15 週 = 90 時間 の学修</b>
---	-------------------------------

(例)

予習 2時間	授業 2時間	復習 2時間	<b>× 15 週 = 2 単位</b>
-----------	-----------	-----------	----------------------

#### 1 時間

大学では、45分を「1時間」と計算しているため、90分間の1授業時間は「2時間」となる。例えば、2単位の講義科目の場合は、1授業時間(90分)の授業を15週行い、30時間確保していることになり、授業時間外学修の60時間と合わせて単位数として2単位を与える、と考える。

## 4 厳正な成績評価のための基準（GPA 制度）

日本大学では、厳格な成績評価や綿密な履修指導、学修の質保証を目的として、GPA（Grade Point Average）制度を導入しています。GPAとは、成績評価別に定められた係数を付与して、1単位あたりの平均値を算出する成績評価方法です（下表「成績評価基準」参照）。

またGPA値は成績評価と、科目の単位数を関連付けて算出するので（下表「GPA計算式」参照）、単位数によって、“学修の重み”が異なってきます。S評価が多くても、単位数の大きい科目を落としてしまうと、GPA評価が下がってしまうこともありますので、十分理解した上で授業に取り組んでください。

### 成績評価基準

		素点	評価	係数	内容	GPA
判定	合格	100～90点	S	4	特に優れた成績を示したもの	対象
		89～80点	A	3	優れた成績を示したもの	
		79～70点	B	2	妥当と認められたもの	
		69～60点	C	1	合格と認められるための成績を示したもの	
	不合格	59点以下	D	0	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの	
無判定		—	E	0	履修登録をしたが成績を示さなかったもの	対象外
		—	P	—	履修登録後、所定の履修中止手続きを取ったもの	
		—	N	—	留学や編入学などにより、修得単位として認定になったもの	

### GPA 計算式

$$\frac{\left( \begin{array}{c} 4 \times S \text{ の} \\ \text{修得単位数} \end{array} \right) + \left( \begin{array}{c} 3 \times A \text{ の} \\ \text{修得単位数} \end{array} \right) + \left( \begin{array}{c} 2 \times B \text{ の} \\ \text{修得単位数} \end{array} \right) + \left( \begin{array}{c} 1 \times C \text{ の} \\ \text{修得単位数} \end{array} \right)}{\text{総履修単位数 (S+A+B+C+D+E)}}$$

- ※ 分母には、P（履修中止科目）およびN（認定科目）は含まず、GPAには算入しない。
- ※ GPA算出の対象科目は、学科の課程修了に関わる授業科目（卒業論文・卒業研究・卒業制作を含む）となる。
- ※ 「成績証明書」では、合格した授業科目の成績（S、A、B、C）および認定科目（N）のみを表示する。したがって、不合格科目（D）や履修登録をしたが成績を示さなかった科目（E）および履修中止手続きをした科目（P）については、「成績証明書」に表示されない。
- ※ D評価またはE評価となった科目を再履修しない場合は、GPA算出の際、総履修単位数として分母にそのまま残るので、注意が必要。なお、D評価またはE評価となった科目を再履修した場合、累積のGPA算出の際には、最後の履修による成績および単位数のみを算入する。
- ※ GPA制度の詳細は、学部等で配付される『学部要覧』などを参照のこと。

## ❖ 履修登録 → 成績 → 振り返り

学期末や年度始めに通知される「成績表」に示された GPA を検証しましょう。その学期や学年における学修を振り返ることにより、次学期や次年度の履修計画を立てる指標となります。いったん履修登録した科目は、履修中止手続きをしない限り GPA の対象となります。こうした学修プロセスは、履修を通じて「自主創造」できる能力を身に付けるためのものでもあるので、しっかり取り組みましょう。

## 5 授業改善を促す学生の“声”

### ❖ 学生の意見は授業改善に反映される

日本大学では、授業ごとに実施する、学生の皆さんの授業改善アンケート調査\*によって、「学生による授業評価」を行っています。皆さんの率直な意見や日ごろ感じていることを教員に届けるとともに、大学は、アンケートの結果を分析して、授業の問題点・反省すべき点を洗い出し、授業の改善や学修効果の向上を図るよう努めています。つまり、学生の皆さんの声によって、授業は改善されていきます。大学の授業の内容や進め方は教員だけの考えで決められるのではなく、学生の意見を反映し、授業の改革・改善が行われていくわけです。

### 授業改善アンケート調査

理解しやすい授業になっているかといった、教員個人の授業に対する学生の率直な意見収集や、学部・学科単位でのカリキュラム改善などを目的として、学生に行う「授業」に関するアンケート調査。





# 卒業への道のり

## 1 卒業要件

### ❖ 卒業が認められる「卒業要件」は 学部・学科ごとに違う

学部・学科によって定められた卒業の認定に関する方針(DP)の下、修業年限に達し、所定の授業科目および単位を修得すると卒業が認められます。学部・学科ごとに卒業のために必要な単位数は異なり、また学年が上がる際にも修得すべき単位や科目が規定されている場合があります。皆さんは、所属する学部・学科の卒業要件をきちんと確認するとともに、1年次の履修から計画的に積み上げていく必要があります。

### ❖ 学位とは？

学位とは、大学や大学院の課程を修了した人に授与される称号です。学部生は「学士」、短期大学部生は「短期大学士」の学位が授与されます。学位は、専攻分野の名称が併記されます。例えば法学部の場合なら「学士(法学)」となります。

このように、学位は日本大学で特定の専門分野を学修し、一定の教育課程を修めた証しとなるのです。

## 2 さらに専門分野を追究するなら

もっと専門分野の知識を深化させたい、研究者を目指したいと思ったら、大学院進学の道があります。

大学院では、修士<sup>\*</sup>、博士<sup>\*</sup>、あるいは専門職<sup>\*</sup>の学位取得に向けて、学修・研究することになります。修士以上の学位は、一定の専門性を有する人材としての称号なので、取得すると研究職や大学教員などへの道が広がります。

### 修士

大学院の修士課程(博士前期課程)を修了し、論文などの審査に合格した者に対して、「修士」の学位が授与される。

### 博士

大学院の博士課程(博士後期課程)を修了し、論文などの審査に合格した者に対して、「博士」の学位が授与される。

### 専門職

専門職の課程を修了すると、「専門職学位」が授与される。